福島県産婦人科医会会報

第 33 号
令和３年７月１日



巻　頭　言

福島県産婦人科医会会長
野　口　まゆみ

先日の会長選挙では多くの先生方からご支持をいただき、二期目を迎えることができました。ありがとうございます。その選挙が終わるのを見届けたかの如くに、本田前会長が亡くなられました。役員選出規定改正は本田前会長から私に引き継がれた重要な課題でありました。二期目も誠心誠意職責をはたしていく所存でございますので、会員の先生方のお力添えをよろしくお願いいたします。

昨年からのCOVID-19感染はまだまだ収束の兆しは見えるどころか、より感染力が強く、重症化しやすいという変異株が猛威を振るっております。そのような中で、昨年延期しておりました第149回東北連合産科婦人科学会をWebで６月12日、13日に開催いたしました。藤森教授を始め大学の先生方の全面的なご協力をいただき、また医会の先生方からは物心ともなるご支援をいただきましたこと心よりお礼申し上げます。

県内で麻酔による妊産婦死亡が２件続きましたことを重く見て、昨年度は医療安全対策の推進を重点事業として周産期医療における病診連携の強化に係る専門委員会を設置し、田中常任理事を中心に各地域にあった患者紹介・母体搬送基準を検討し、医会としての考えを取りまとめ、会報に掲載いたしました。

コロナ禍の影響で、特に妊婦さんのメンタルヘルスが気になっており、今年度は妊産婦包括支援事業への積極的参加を重点事業として、COVID-19感染状況をみながら、母と子のメンタルヘルス研修会の開催を考えております。その他昨年度積み残しました母体救命研修、子宮頸がん予防ワクチン啓発公開講座、ふくしま産婦人科未来塾も何とか開催していきたいと思っています。また内閣府は性犯罪・性暴力等への支援体制を強化するため、夜間休日対応オンコール体制の整備をするように各都道府県に通達しております。県産婦人科医会としても県と協力し支援強化に対応していきたいと考えております。医師の働き方改革につきましては、最近話題の持続可能な社会の実現いわゆるSDGsの観点から、医会内で研修・対応を検討していきたいと思っています。また福島県産婦人科医会の目的にあります『女性の健康保持・増進』に対応すべく、女性ヘルスケアの視点を加えた活動をしていく予定であります。

このように課題が山積ではありますが、会員の皆様の更なるご協力をお願い申し上げまして、巻頭言といたします。

令和３年７月

目次

巻 頭 言 …… 1
令和２年度総会・特別講演 …… 2
令和２年度納会並びに研修会 …… 3
令和３年度総会・特別講演 …… 4
委員会だより …… 6
地区だより …… 11
　相双地区
新役員紹介 …… 11
新センター長紹介 …… 13
新教授紹介 …… 13
新入医局員紹介 …… 14
お知らせ …… 14
社保Q＆A …… 15
福島県産婦人科医会役員 …… 17
子宮がん施設検診医療機関登録審査委員会委員 …… 17
福島県産婦人科医会業務担当者 …… 18
地区幹事・副地区幹事 …… 19
社保・国保審査委員 …… 20
日産婦医会東北ブロック役員（福島県関係） …… 20
福島県先天性代謝異常等検査事業専門家連絡会議委員 …… 20
公益社団法人日本産婦人科医会代議員 …… 20
公益社団法人日本産婦人科医会予備代議員 …… 20
公益社団法人日本産婦人科医会委員 …… 20
編集後記 …… 21

令和２年度
福島県産婦人科医会総会・特別講演



〈会　場　風　景〉



〈会　場　風　景〉

◇日　　時

令和２年９月27日(日)　13時30分～16時00分

◇場　　所

福島県医師会館　１階　大会議室

◇開　　会

◇会長挨拶

◇物故会員に対する黙祷

◇議事録署名人指名

◇報　　告

１）会務報告

・おぎゃー献金精算報告

２）その他

◇議　　事

議案第１号　令和元年度福島県産婦人科医会事業報告に関する件

議案第２号　令和元年度福島県産婦人科医会一般会計収入支出決算に関する件

議案第３号　令和元年度福島県産婦人科医会義捐金特別会計収入支出決算に関する件

議案第４号　令和２年度福島県産婦人科医会会費減免に関する件

議案第５号　令和２年度福島県産婦人科医会事業計画に関する件

議案第６号　令和２年度福島県産婦人科医会一般会計収入支出予算に関する件

議案第７号　令和２年度福島県産婦人科医会義捐金特別会計収入支出予算に関する件

議案第８号　福島県産婦人科医会規約改定に関する件

◇協　　議

◇おぎゃー献金贈呈式



〈おぎゃー献金贈呈式〉

◇特別講演

１)「妊婦の気道管理」

座長：福島県産婦人科医会

会長　野口まゆみ

講師：埼玉医科大学総合医療センター麻酔科

教授　照井　克生 先生



〈照井　克生先生〉

2）「PIH から HDP へ　── 妊婦高血圧症候群 up to date ──」

座長：福島県立医科大学
　　産科婦人科学講座
　　教授　藤森　敬也

講師：岡山大学大学院
　　医歯薬学総合研究科
　　産科・婦人科学教室
　　教授　増山　　寿 先生



〈増山　　寿先生〉

令和２年度 納会並びに研修会



〈納会　会場風景〉

◇日　　時

令和２年12月13日(日)　13時～16時30分

◇場　　所

郡山ビューホテルアネックス　４階「花勝見」

◇報告事項

医療対策委員会（田中常任理事）
医療保険委員会（田中常任理事）
がん対策委員会（渡邉常任理事）
母体保護委員会（新妻副会長）
思春期保健委員会（桜井常任理事）
医療安全対策委員会（村岡常任理事）
献金委員会（古川常任理事）
福島県産婦人科医会規約改定について
（野口会長）

その他



〈会　長　挨　拶〉

◇研 修 会

1）「2020年診療報酬改定の要点」

座長：福島県産婦人科医会
会長　野口まゆみ

講師：日本産婦人科医会
常務理事　宮崎亮一郎 先生

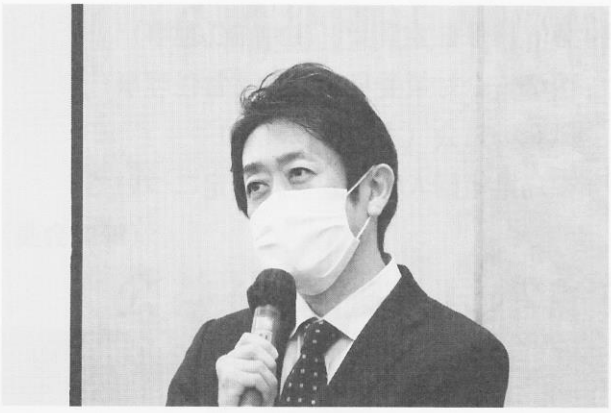


〈宮崎亮一郎先生〉

2）「産婦人科領域における小児外科医の役割」

座長：福島県立医科大学
産科婦人科学講座
教授　藤森　敬也

講師：福島県立医科大学附属病院
小児外科
教授　田中　秀明 先生



〈田中　秀明先生〉

令和3年度
福島県産婦人科医会総会・特別講演

◇日　　時

令和３年４月29日（木・祝）
13時30分～17時05分

◇場　　所

福島県医師会館　１階　大会議室

◇開　　会

◇会長挨拶

◇物故会員に対する黙祷

◇議事録署名人指名

◇報　　告

１）会務報告
- おぎゃー献金精算報告

２）その他

◇議　　事

議案第１号　令和２年度福島県産婦人科医会事業報告に関する件

議案第２号　令和２年度福島県産婦人科医会一般会計収入支出決算に関する件

議案第３号　令和２年度福島県産婦人科医会義捐金特別会計収入支出決算に関する件

議案第４号　令和３年度福島県産婦人科医会会費減免に関する件

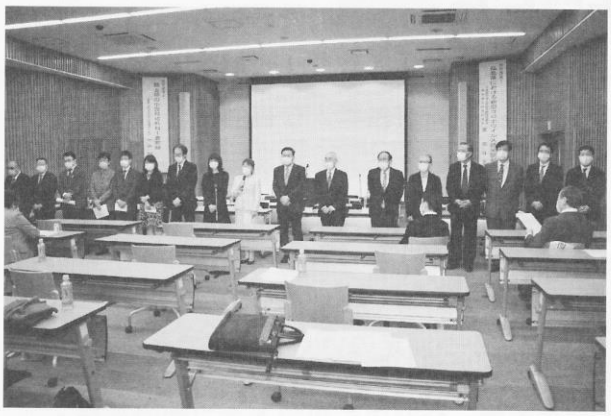
議案第５号　令和３年度福島県産婦人科医会事業計画に関する件

議案第６号　令和３年度福島県産婦人科医会一般会計収入支出予算に関する件

議案第７号　令和３年度福島県産婦人科医会義捐金特別会計収入支出予算に関する件

◇協　　議

◇新役員委嘱



〈新　役　員〉

◇役員退任者表彰



〈役員退任者表彰〉

◇特別講演

1)「福島県における新型コロナウイルス感染症対策」

座長：福島県産婦人科医会
会長　野口まゆみ

講師：公益財団法人 星総合病院 理事長
福島県医師会 副会長
星　北斗 先生



〈星　北斗先生〉

2)「顔と頭の小児形成外科～最前線」

座長：福島県立医科大学
産科婦人科学講座
教授　藤森　敬也

講師：福島県立医科大学
形成外科学講座
主任教授　小山　明彦 先生



〈小山　明彦先生〉

委員会だより

「周産期医療における病診連携の強化に係る専門委員会」報告

周産期医療における病診連携の強化に向けて

【緒言】　県産婦人科医会では、一次病院、二次病院、三次病院それぞれの役割分担をはかり、病診携をはかっていくことで福島県での妊産婦が安全かつ満足のいく分娩ができることを目指している。また、福島県は面積が広く、県中、会津、いわき、相双など地域によっても対応が異なっており、医師の偏在も課題となる。

今回、診療所・病院の病診連携についてのアンケート、実態調査を実施し、今後に向けて下記の提案をした。一次病院での安全をめざした紹介推奨基準を外来時・帝王切開時に関して示し、二次・三次病院では病診連携を念頭に入れた対応を提示した。

また、各地域ごとの現状と対応を示した。

(1)　一次病院での対応

• 診察時、二次・三次病院への紹介・搬送の目安

1）初診時（里帰り初診時を含む）での対応

≪紹介が推奨される症例≫（ハイリスク症例）

重度肥満（BMI≧35）、多胎（特にMD双胎）

合併症妊娠

：高血圧（投薬中）、慢性腎炎（尿蛋白陽性）、
糖尿病（治療中）、SLEなどの膠原病（投薬中）
抗リン脂質抗体症候群、血液疾患（血小板10万未満など）
精神疾患（統合失調症、うつ病投薬中）
甲状腺機能亢進症（投薬中）、てんかん（投薬中）など

産科既往歴

：前回早剥、重症HDP既往、重症FGR既往、死産・新生児死亡既往、妊32週未満の早産既往、３回以上帝切既往

≪紹介を考慮してもよい症例≫

身長150cm未満、肥満（BMI≧30）、15歳以下、40歳以上

妊娠中期までの未妊健、社会的困窮妊婦

合併症妊娠：気管支喘息（投薬中）、
精神疾患（現在投薬なし）、軽度高血圧など

産科既往

：２回帝切既往、妊娠糖尿病既往、重症新生児仮死既往、など

2）妊娠経過においての対応

≪紹介が推奨される症例≫

重症HDP、尿蛋白（++）以上が２回継続、

妊娠糖尿病（インスリン治療必要症例）、前置胎盤
子宮頸管長10㎜以下の切迫早産、重症FGR、
４週間以上発育停止のFGR、弛緩出血既往（輸血既往）
発熱妊婦でＡ群溶連菌感染が強く疑われる場合　など

≪紹介を考慮する症例≫
羊水異常、子宮頸管長10～20㎜の切迫早産、
その他分娩時異常が予想される場合（子宮筋腫など）

※大丈夫であれば、一次病院へ戻す可能性もある。

＊＊紹介・搬送の詳細は産科ガイドラインを参照する。

・帝王切開になる症例での紹介・搬送の目安

≪紹介・搬送を推奨する症例≫
：立合い医１人での帝切が予想される場合
腰椎麻酔困難で全身麻酔が予想される場合
重度肥満（BMI≧35）
重症HDP
新生児仮死が予想される場合

≪その他、紹介・搬送が推奨される症例≫
全身麻酔が必要な帝王切開で麻酔科医がいない場合
帝王切開で自家麻酔（腰椎麻酔orケタラール麻酔）がうまくいかない場合
（不成功の場合は迷わず二次病院へ搬送する）
一人で他の医師が集まらない緊急帝切の場合

≪紹介・搬送の検討を考慮する症例≫
２回以上の帝王切開既往
前回帝王切開のトラブル症例（腰麻困難、癒着など）
肥満（BMI≧30）　投薬中の合併症あり

・産後の異常で搬送が推奨される事例
産褥出血に対し、SI（ショックインデックス）≧１では高次病院へ搬送する。
（特に輸血に即対応できる病院が推奨される）

・１人体制の診療所に対して
・日頃から帝切など手伝いが必要な場合に備えて、関連病院にお願いしておく。
・可能であればサポートについて病院と契約しておく。

(2)　二次・三次病院での対応

・一次病院からの搬送はなるべく断らない。
（基準に合わないケースもあるかもしれないが、診療所の状況を考えてなるべく受け入れるように対応してほしい）
～特に、緊急帝王切開の要請はなるべく受けるようにしてほしい。
・受け入れ困難の場合、県の周産期情報システムを活用して搬送先を判断する。
～可能なら病院に対応してほしい。
福島医大にも相談できる体制を構築する。
（夜間の対応も可能となるようにする）

• 一次医療機関から紹介搬送された症例について、対応や処置に改善事項が考えられる場合は、検討の場を設け、場合によっては地方会で報告する。

(3) 各地域の現状と対応～アンケート結果を踏まえて

【県　北】 三次病院で県唯一の総合周産期センターである福島医大を中心に対応しているが、二次病院としてNICUのある大原病院があり、人員充実をはかる必要がある。

【県　中】 三次病院・地域周産期センターとしての太田西ノ内病院、二次病院としての寿泉堂綜合病院、星総合病院、公立岩瀬病院があり、充分な連携を保つ必要がある。診療所は状況に応じて病院を決めてほしい。
連絡のあった病院はなるべく受けてほしいが、受け入れ困難な場合、他院を提示していくことを検討してほしい。

【県　南】 ほぼ白河厚生病院に集中しており、人員充実をはかる。

【会　津】 竹田綜合病院を中心に対応しており、三次病院・地域周産期センターとして竹田病院の人員充実をはかる必要がある。また、会津中央病院は救急指定病院であり、二次病院として人員サポートは必要である。

【いわき】いわき市立医療センターを中心に対応しており、地域周産期センターとして各診療所と連携をはかっていくことが大切である。

【相　双】 ほぼ南相馬市立病院に集中しており、常勤医3人体制を維持していく必要がある。

（田中　幹夫 記）

思春期保健委員会

◇令和２年度第１回福島県産婦人科医会思春期保健委員会

日　時：令和２年12月13日㈰　12：00～13：00

場　所：郡山ビューホテルアネックス

３Ｆ　雲水峰

出席者：16名

※令和元年度の反復中絶状況調査結果に関する解析報告と次年度の調査継続、研修会の実施見通し等が協議された。



〈思春期保健委員会〉

◇令和２年度コメディカル・思春期保健合同研修会（ハイブリッド形式：会場+Web開催）

日　時：令和３年３月７日㈰　13：30～15：40

場　所：福島県医師会館

講演１　緊急避妊法の臨床～クリニックにおける使用経験から～

座長：野口まゆみ（福島県産婦人科医会会長）

講師：桜井　　秀（桜井産婦人科医院院長）

講演２　思春期からの生涯を通じた健康管理

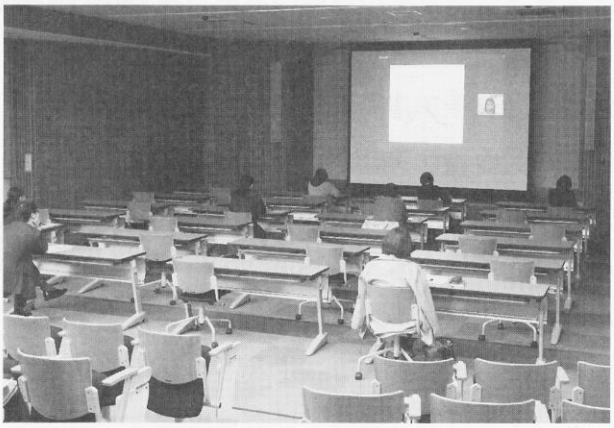
座長：小宮ひろみ（福島県立医科大学附属病院 性差医療センター教授）

講師：望月　善子先生（もちづき女性クリニック院長）

参加者　74名

※平成18年から毎年開催されてきた思春期保健研修会は、昨年度コロナ禍により初めて中止となったが、本年度はコメディカルと合同でハイブリッド形式により行われた。参加者には、産婦人科専門医（専門医機構）のポイントも付与された。





〈コメディカル・思春期保健合同研修会（ハイブリッド形式：会場+Web開催）〉

◇令和３年度 福島県産科婦人科学会 春季学術集会

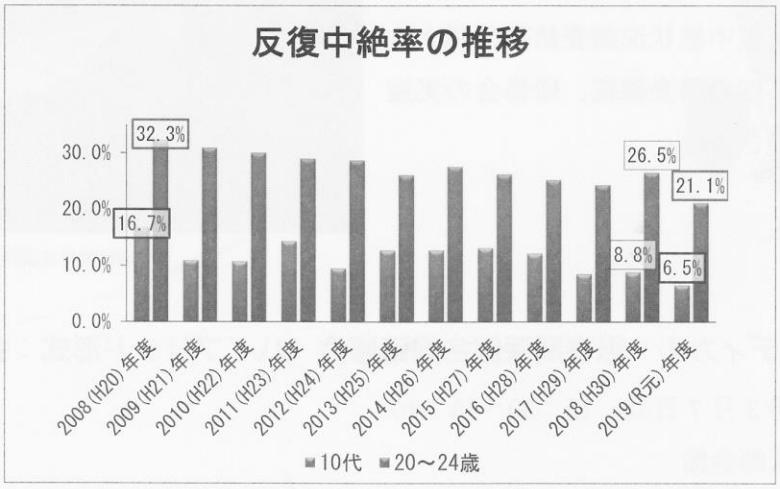
日　時：令和３年４月29日（木/祝）

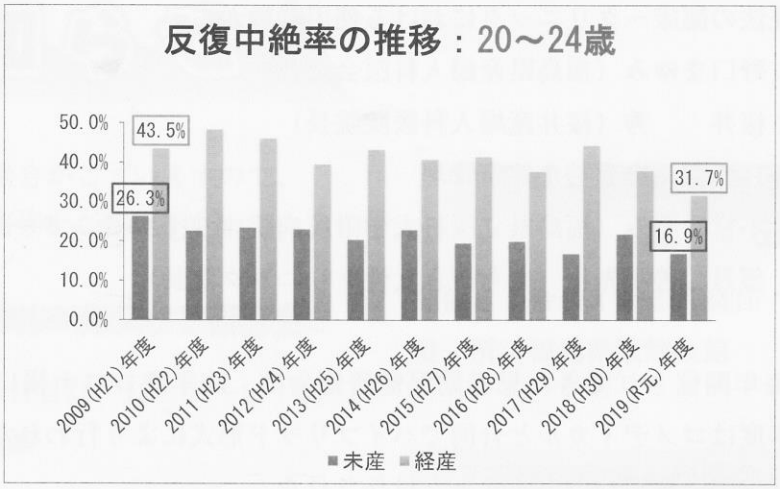
場　所：福島県医師会館

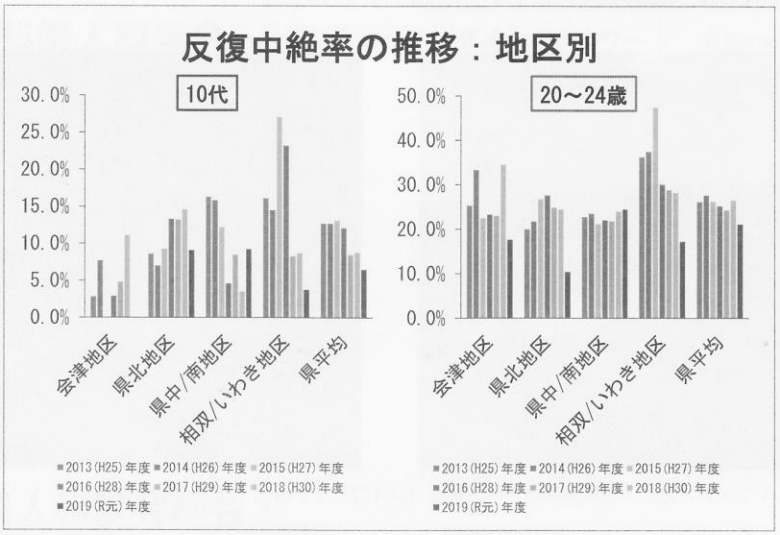
福島県における反復中絶実施状況調査～12年間の経過～

桜井　　秀（思春期保健委員会 委員長）、野口まゆみ（福島県産婦人科医会会長）

※12年間に渡る調査データの推移を発表した。以下に発表内容のスライド一部を掲載。





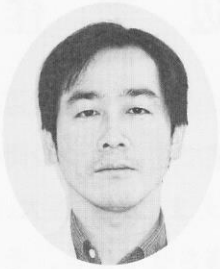


文責：思春期保健委員会 前委員長

桜井　　秀

地区だより

○ 相双地区 ○



相双地区幹事

安部　宏

平成27年１月に相双地区幹事に就任し、６年が経過しました。相双地区は新地町から広野町まで南北に長い地区で、どの市町村も震災・津波・放射線被害を被っています。相双地区とはいっても、病院・診療所は相馬地方に所在しています。常勤医のいる病院は南相馬市立総合病院のみで、医院は４軒ありますが分娩可能施設は１院のみです。相双地区で分娩施設は２か所のみとなりました。会員数は６名のみで地区を守っています。新型コロナウイルス対策もあり、研修会はもう３年ほど開催していません。地区内に福島第一原子力発電所があるため、全国から注目される地区となっています。Anetisで特集を組んでいただいたり、震災10年の番組に取り上げていただいたり、２月には福島医大主催の国際シンポジウムで講演をさせていただきました。復興という道のりは道半ばですが、「新たな生命の誕生なくして未来はない」という信念のもと、故郷を守っていきたいと考えています。南相馬市立総合病院は常勤医２名に加え、定期的な福島医大からの診療応援と月１回の藤森教授による胎児超音波外来を行い、産科・婦人科ともに当院で対応できる体制を整えています。小児科・麻酔科のサポートがより整えば、地区外への搬送が減ると思われます。県内の先生方には今後ともサポート頂きながら、相双地区産婦人科医療を今後とも守っていきたいと考えています。宜しくお願い申し上げます。

新役員紹介



理　事

飯澤禎之

この度、役員の末席に着かせて頂く事になった飯澤です。自己紹介と抱負を述べ、御挨拶とさせて頂きます。昭和62年福島医大卒、これまで最多の８人が入局した学年の一人です。現会長の野口先生にも可愛がって頂いた（いじめられたではなく文字通りに）学年です。出身は東京という事になっていますが、実は福島医大で生まれました。母子手帳には大川先生のお父さんの名前が書かれています。

県立会津病院で研修後、富岡の今村病院で医長研修、平成８年に再び県立会津病院に赴任しました。もともとが小児科志望で、赤ちゃんが好きでこの仕事を選んだ事もあり、産科をメインでやっていこうと考えていました。しかし、産婦人科医の集約が必要だという事になり、平成18年、県立会津病院の産婦人科は常勤医がいなくなり、私は現在の会津中央病院で勤務する事となりました。

少子高齢化社会の中、福島県でも分娩数の減少、分娩施設数の減少、そして会員の先生方の中でも産科に携わる先生の数が減っているかと思います。分娩を手掛ける産婦人科医の一人として、本会そして会員の先生方のお力になれる様務めさせて頂きます。

では、これから宜しくお願い致します。



理　事

添　田　　周

令和３年４月から福島県産婦人科医会理事に就任させていただきましたのでこの場をお借りしてご挨拶させていただきます。平成９年に福島県立医科大学産科婦人科学講座に入局し25年が経ちました。令和２年４月から藤森敬也主任教授のご高配で現職をつとめさせていただいております。日々の臨床・研究・教育という今までの仕事以外に、経験したことのなかった大学での役職や学会での仕事などを経験させていただく機会が増えてまいりました。この変化に順応することもチャレンジングなことですが、自分に与えられた最も重要なタスクは少しでも多くの良質な婦人科腫瘍医を育成することにあると考え、若い先生と切磋琢磨しております。

一方で、福島県の臨床産婦人科医の抱える諸問題について取組み、産婦人科医療、医業が適正に行われるための活動を支援してきた（医会ホームページより抜粋）、福島県産婦人科医会の運営に携わらせていただくことになり、大学や婦人科腫瘍といった範囲をこえてさらに大きな枠組みで福島県の産婦人科医療に貢献できればと考えております。

今後も何卒よろしくお願いいたします。

（福島県立医科大学医学部産科婦人科学講座教授
・附属病院婦人科部長）



幹　事

渡　辺　美　佳

この度、医会の幹事を仰せつかりました渡辺美佳と申します。平成元年卒業です。いつの間にか産婦人科入局後30年を越えました。医大、永井病院、県立三春病院で研修させて頂き、その後公立藤田病院、坪井病院で勤務致しました。

諸先輩の先生方より暖かいご指導、ご教授頂きました。

2000年に産婦人科クリニックを開業致しました。開業の際も言葉ではいい尽くせない恩がある先輩がいます。クリニック開業後も冷や汗どころでは済まない状況を諸先生方に幾度となく助けて頂きました。

2012年に産科を終了し、婦人科クリニックになりました。燃え尽き症候群的な状態が数年に渡り続いておりました。お産でコールされることもなくなり、外来患者さんとの会話も時間的余裕を持てるようになり、最近はやっと町医者感を心地よく感じるようになりました。

おりしもコロナウイルスがますます猛威を奮い、診療や生活にもストレスの多い日々が続いております。予期せぬ異常事態の中での産科診療や手術管理のご苦労は、私の想像を超えるものと思います。

そんな時に医会での仕事を推薦して頂きました。微力ながらお役に立てればと存じます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

新センター長紹介



福島県立医科大学
ふくしま子ども・女性
医療支援センター
センター長

髙　橋　俊　文

令和２年11月１日付けで、福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター長に就任しました髙橋俊文と申します。福島県には、平成28年４月から、前センター長の故水沼英樹先生と共に、ふくしま子ども・女性医療支援センターに赴任し、今年の４月で６年目になりました。昭和41年１月の丙午生まれで、出身は山形県です。平成２年に山形大学医学部を卒業後同産科婦人科学教室に入局、関連病院で研修の後、平成８年より山形大学で、学生教育、臨床、研究に従事して参りました。主な専門は生殖内分泌領域で、不妊症患者の診療を現在まで継続して行っております。福島に来てからは、産科婦人科教室の先生方と一緒に、婦人科悪性腫瘍の腹腔鏡下手術の立ち上げに参加させていただきました。我々のセンターは現在、産婦人科医３名、小児科医１名、小児外科医１名が常勤医として、その他非常勤医師が10名（産婦人科医５名、小児集中治療医５名）登録されています。我々センターは、産科婦人科学講座、小児科学講座、小児外科と密接な連携を取りながら、地域医療・医療教育・学内医療の支援に携わっております。「福島県に住む女性が安心して子どもを産み、育て、そして健康な一生を過ごすための医療支援」を行って参りますので、産婦人科医会の先生方からのご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

新教授紹介



遺伝診療部病院教授

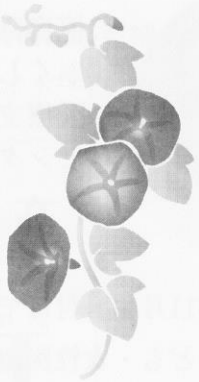
渡　邉　尚　文

2019年９月付けで福島県立医科大学附属病院遺伝診療部の病院教授を拝命いたしました。遺伝診療部は2016年５月に福島県立医科大学附属病院の中央施設の１部門として開設されました。開設した主な理由は、遺伝外来の中心となる臨床遺伝専門医を育成するのに必要な、認定研修施設を取得するためでした。施設認定の条件として遺伝専門外来が必須であり、藤森教授のお計らいで、当時病院長でおられた整形外科教授の紺野愼一先生にお願いして認められた次第です。開設当時から遺伝診療部の部長としてこれまで産婦人科の症例を中心に、院内外の先生方から依頼のあった遺伝カウンセリングを行って参りましたが、病院教授となった現在も診療を継続しております。

遺伝診療部は、臨床遺伝専門医６名（常勤４名、非常勤２名）、認定遺伝カウンセラー２名（常勤１名、非常勤１名）を中心に、各診療科の医師と協力しながら診療を行っています。診療内容はNIPTをメインに、遺伝性腫瘍、小児、成人と幅広い遺伝性疾患に対応しています。臨床遺伝専門医を目指す修練医は産婦人科を中心に院内外で10名おり、毎月行っている症例検討会や遺伝カウンセリングの陪席を通じて、専門医取得を目指して研鑽を積んでいます。今後は臨床遺伝の臨床・教育を益々充実させるべく精進して参る所存ですので、同窓会の先生方からのご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

新入医局員紹介

菅　野　美　沙



新入医局員の菅野美沙と申します。出身はいわき市で、福島県立医科大学を卒業し、同大学の附属病院で初期研修を行いました。入局後の現在も同院で勤務しており、経験豊富な先生方に囲まれ充実した日々を送っております。至らない点もありますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

お知らせ

※変更となる場合がございますので、
必ず開催案内等をご確認下さい。

母と子のメンタルヘルスケア研修会

日時：令和３年７月11日(日)　13：00～16：30
場所：福島県医師会館

福島県産科婦人科学会・秋季学術集会

開催日：令和３年９月26日(日)
場　所：会津若松市

第47回日本産婦人科医会学術集会

会期：令和３年10月２日(土)～10月３日(日)
会場：札幌プリンスホテル　国際館パミール

福島県産婦人科医会納会・母体保護法指定医師研修会

開催日：令和３年12月19日(日)
場　所：郡山ビューホテル

令和４年度福島県産婦人科医会総　会

開催日：令和４年４月24(日)
場　所：福島県医師会館

○ 福島県産婦人科医会ホームページ ○

(ログイン･パスワード　fukushima・fukushima)
各種情報を掲載しております。ご活用ください。
また、ご要望･ご意見をお待ちしております。

○ メールアドレス ○

会員の先生方へ
ご連絡先といたしまして、下記QRコードよりメールアドレスご登録のご協力をお願い申し上げます。(医会ホームページよりお入りいただけます。)

https://forms.office.com/r/RrANie2sfE

◆◆◆ 社保Q＆A ◆◆◆

① 令和２年度日本産婦人科医会東北ブロック医療保険連絡協議会報告

- 婦人科特定疾患治療管理料
  - ：・（器質性）月経困難症と原因となる器質性疾患の両方の病名が必要
    - 初診から同月の間は算定できない（初診料に含まれる）
      ～再診料との組み合わせ
    - 薬物の終了後・休薬期間中の算定は不可
    - 最低、初回に治療計画作成、文書同意が必要（電カルであれば取り込む）
    - 医療機関としての保険請求には最低１名の研修終了証明書の提出が必要だが、医師個人に与えられる資格なのでみなさんが受講することを推奨する。
- 診療情報提供料
  - ：・かかりつけ医からの紹介患者を手術した後、かかりつけ医に術後フォローをお願いする場合、３（Ｂ011）で算定。
    終診とする場合は１（Ｂ009）で算定。
- 「心身医学療法」
  - ：自律神経失調症（心身症）、不眠症（心身症）での算定は薬物療法されている場合同日での算定不可
    更年期障害（心身症）は客観的事実として医師が心身療法を行っている状況の詳記記載が必要である
- 子宮頚管粘液採取料
  - ：子宮全摘後の膣断端細胞診で算定可だが、それ以外膣癌疑いでは算定不可
- 子宮膣部組織採取料
  - ：子宮体癌などの膣断端再発疑いの膣断端生検で算定可
- 膣洗浄
  - ：切迫流早産では帯下・出血等が認められるので算定可
- PET－CT
  - ：他院でCT、MRIが行われている場合、症状詳記で算定可
    疑い病名では算定困難（臨床上高い確率で悪性腫瘍が疑われるコメントが必要）
- 稽留流産の超音波
  - ：稽留流産診断後、手術まで数日間の期間があった場合、最終チェックの再度の超音波は算定可
- 「胸腹部（生殖器領域）」と同日の超音波算定
  - ：「胸腹部」と「胎児心エコー」は部位と方法が違うので併算定可
    「胸腹部」と「乳房」は、同一方法だが別部位のため、別時間帯なら漸減で併算定可
    「胸腹部（消化器領域）」は同一方法であり、同日は算定不可
    「下肢血管」は同時であれば主たる点数のもののみを算定可

• 子宮腺筋症

：**• 子宮内膜症の病名なく、子宮腺筋症のみにて CA125などマーカー検査は算定不可**

• 子宮内膜症病名なく子宮腺筋症病名のみで Gn-RH アゴニスト処方は算定不可

• GnRH アンタゴニスト（レルミナ錠）と GnRH アゴニストの投与期間

：原則、合わせて 6 か月間（超える場合は詳記必要）

• ゴナールエフ皮下注

：**単に「不妊症」、「排卵障害」などの病名ではなく、**

「多嚢胞性卵巣症候群」、「視床下部・下垂体機能障害」などの病名が必須

• **ジーラスタ**

：化学療法を行っている事実があれば、必ずしも発熱性好中球減少症の発症抑制のコメントは不要。

•「胎児機能不全」での処置：吸引分娩におけるクリステレル胎児圧出法の併算定は不可

• 子宮全摘手術中の尿管損傷に対する尿管再建手術

：手術操作による損傷で関連性あり、かつ同一術野のため詳記があっても併算定不可

• DPC で、硬膜外麻酔併施加算がない手術

：携帯型ディスポーザブルポンプ（PCA 型）と IVPCA の併算定不可

（フェンタニールなどの薬剤算定は可）

• 不規則抗体保有妊婦から出生した児の（直接）クームス検査、不規則抗体検査

：児が黄疸などの実質的な疾患を有さない限り、スクリーニング検査であり、保険の適応にならない。

② その他、お知らせ

•「細菌性膣炎」の病名での治療の算定は原則半年です。まめに病名を更新してください。

• 膣錠同日併用は「細菌性膣炎･膣症」（クロマイ膣錠、フラジール膣錠など）と「萎縮性膣炎」（エストリール膣錠など）のみです。

クロマイ膣錠・オキナゾール膣錠同時投与、クロマイ膣錠・フラジール膣錠同時投与などは認められませんのでご注意ください。投与日を変えて治療してください。

※ 疑問、質問がありましたら、

産婦人科医会または田中携帯（090-6453-5179）までご連絡ください。

（田中　幹夫 記）

福島県産婦人科医会役員

（任期：令和３年４月～令和５年３月）

役職名	氏　名	地区名	新･再	役職名	氏　名	地区名	新･再
会　長	野口まゆみ	県　北	（再）	理　事	片倉義文	県　南	（再）
副会長	新妻和雄	〃	（再）	〃	飯澤禎之	会　津	（新）
常任理事	古川宣二	県　中	（再）	〃	添田　周	県　北	（新）
〃	田中幹夫	〃	（再）	幹　事	呉竹昭治	〃	（再）
〃	村岡栄一	いわき	（再）	〃	加藤克彦	県　中	（再）
〃	小宮ひろみ	県　北	（再）	〃	渡辺美佳	〃	（新）
〃	本多つよし	いわき	（再）	監　事	佐藤正典	県　北	（再）
〃	鈴木博志	県　中	（再）	〃	小林徳男	県　中	（再）
〃	渡邉尚文	県　北	（再）				
〃	鳴瀬夕子	会　津	（再）				
〃	大川敏昭	県　北	（新）				

子宮がん施設検診医療機関登録審査委員会委員

（任期：令和３年４月１日～令和５年３月31日）

役職名	氏　名	地区名	役職名	氏　名	地区名
委員長	小野　聡	県　中	委　員	山内隆治	県　南
委　員	菅野　薫	県　北	〃	武市和之	会　津
〃	渡邉尚文	〃	〃	本多つよし	いわき
〃	坂本且一	県　中			

福島県産婦人科医会業務担当者

（任期：令和３年４月１日～令和５年３月31日）

業　　務	担当役員氏名	委員会委員氏名
１．総　　務 Ａ　庶　　務 Ｂ　法制・倫理	（正）新妻　和雄 （副）村岡　栄一	
２．経　　理	（正）田中　幹夫 （副）村岡　栄一	
３．広　　報	（正）古川　宣二 （副）大川　敏昭 村岡　栄一 加藤　克彦	
４．学術研修	（正）小宮ひろみ （副）大川　敏昭 渡邊　尚文 呉竹　昭治	佐藤　正典、矢澤　浩之
５．医療対策	（正）田中　幹夫 （副）古川　宣二 新妻　和雄	金　　彰午、鈴木　庸介
６．勤務医	（正）鈴木　博志 （副）本多つよし	坂本　且一、野村　泰久、菅沼　亮太、 山田　純也
７．医療保険	（正）田中　幹夫 （副）本多つよし 渡邊　尚文	小野　　聡、山内　隆治、菅野　　薫、 舟田　雄二、月川　　奏、安部　　宏、 阿部　州雄
８．母子保健	（正）鈴木　博志 （副）荒木　　壮 飯澤　禎之 加藤　克彦	舟田　雄二、月川　　奏、矢澤　浩之
９．先天異常	（正）呉竹　昭治 （副）渡邊　尚文	小野木　哲、野村　泰久、三瓶　　稔
10．がん対策	（正）渡邊　尚文 （副）添田　　周 本多つよし 片倉　義文	坂本　且一、菅野　　薫、小林　徳男、 高梨子篤浩、西山　　浩
11．渉外（情報システム含）	（正）大川　敏昭 （副）古川　宣二	土川　直樹、二瓶　　貢、鈴木　庸介
12．母体保護	（正）新妻　和雄 （副）大川　敏昭 荒木　　壮 鳴瀬　夕子 片倉　義文	西山　　浩

業　　務	担当役員氏名	委員会委員氏名
13. 思春期保健	(正) 鳴瀬　夕子 (副) 鈴木　博志 大川　敏昭 小宮ひろみ 渡辺　美佳	安達公美子、阿部　雪江、菅野　良恵、 土屋あさ子、鳴瀬都美子、桜井　　秀
14. 女性ヘルスケア	(正) 小宮ひろみ (副) 鳴瀬　夕子 鈴木　博志 渡辺　美佳	大和田真人、山口　明子、阿部　雪江
15. 医療安全対策 A　医療事故対策 B　医療事故報告	(正) 村岡　栄一 (副) 田中　幹夫 本多つよし 鈴木　博志 飯澤　禎之	市川　文隆、藤森　敬也、佐藤　功一、 山内　隆治、金　　彰午、長浦　　良
16. 母体救命研修対策	(正) 新妻　和雄 (副) 加藤　克彦	鈴木　大輔、幡　　亮人、安田　　俊
17. 献　　金	(正) 古川　宣二 (副) 村岡　栄一 荒木　　壮 片倉　義文	矢澤美穂子、舟田　雄二、高野　芳正、 鈴木　庸介

地区幹事・副地区幹事

(任期：令和３年１月１日～令和４年12月31日)

地区名	地区幹事名	副地区幹事名
県　北	鈴木りか	今村眞哉 渡部晋哉 矢澤美穂子 渡邉文則
県　中	坂本且一	阿部州雄 吉田孝雄
県　南	山内隆司	高野芳正
会　津	山田純也	舟田雄二
相　双	安部　宏	西　智雄
いわき	月川　奏	鈴木伸明

社保・国保審査委員

社保	菅野　薫	国保	田中幹夫
〃	本多つよし	〃	小野　聡
〃	渡邉尚文		
〃	山内隆治		

日産婦医会東北ブロック役員(福島県関係)

役職名	氏　名	役職名	氏　名
副会長	野口まゆみ	理　事	新妻和雄
		〃	小宮ひろみ

福島県先天性代謝異常等検査事業専門家連絡会議委員

委員　鈴木博志

公益社団法人日本産婦人科医会代議員

新妻和雄

公益社団法人日本産婦人科医会予備代議員

大川敏昭

公益社団法人日本産婦人科医会委員

女性保健委員会	委員長	野口まゆみ
医業推進委員会	委長	新妻和雄
母子保健委員会	委長	西郡秀和

編集後記

令和２年度はコロナ禍のなかで、何かと大変な年だったと思います。そのなかでの活動や研修会が報告されています。また、「周産期医療における病診連携の強化に係る専門委員会報告」では一次病院、二次病院、三次病院のそれぞれの役割分担をはかった病診連携について報告されています。我々一次医療を担うものにとっては一次医療施設での紹介推奨基準が提示されていますので助かります。

地区だよりでは安部宏先生より相双地区の周産期医療の現況が記されています。新役員紹介では新任の抱負を掲載しております。今後の活躍を期待しております。

社保Q&Aについては日常の診療で発生する診療行為について診療報酬上の解釈が説明されており助かります。担当の先生には感謝いたします。

今回、お知らせに「福島県産婦人科医会ホームページ」の紹介をしております。積極的な活用により各種の情報を掲載し皆様の情報共有をはかっていけたらと思います。

（古川　宣二）

福島県産婦人科医会会報　第33号

発行者　野口　まゆみ
発行所　福島県産婦人科医会
〒960－8036　福島市新町４－22　TEL（024）522－5191
FAX（024）521－3156
印刷所　株式会社　プロセス印刷